



市地域医療懇話会・
(一社)奥州市医師会
けん
石川 健 会長

地方において、公的医療機関の医師確保は困難を極めています。それにより、急性期の医療や救急に十分対応できない状況が危惧されています。今後もこのような状況が続くと、地域の中で救急や重症の患者に対応できないことになり、地域医療のバランスがますます崩れてしまいます。

市地域医療懇話会では、さまざまな分野からの委員が集まり、この改革プランについて深く議論しています。市民の生命を守るためには、市の病院や診療所がその時代に合った役割を発揮し、民間の医療機関と連携を図ることが重要と考えます。医師会としても医師同士の連携を深め、地域医療を支えていきたいと考えています。

■表2 市立医療施設における一般会計からの繰出金の推移
〔単位：千円〕

施設名	22年度	23年度	24年度
総合水沢病院	928,539	922,043	881,184
まごころ病院	200,509	220,426	200,000
前沢診療所	261,263	198,764	213,696
衣川診療所	146,127	147,667	139,143
衣川歯科診療所	49,707	43,784	32,007
江刺区5診療所	2,845	3,669	4,477
小児夜間診療所	9,418	11,444	11,415
合計	1,598,407	1,547,797	1,481,922

※総合水沢病院は公立病院特例償還金および22年度繰上償還への繰出金を除く

改革プランの策定

医師や看護師などの医療従事者の確保は、将来的にも困難な状況が続くと予想されます。そのような中、市は、逼迫した財政状況でありながらも、市の医療施設を長期に安定して継続し、市民の健康を守っていかねばなりません。

市は、医療従事者不足の解消に向けた取り組みや計画的な施設改修を進め、市が運営する病院と診療所の経営形態

や、運営方法、体制などを見直すため改革プランの策定を進めています。

改革プランの策定に当たっては、医師や薬剤師などの医療関係者や関係機関の職員、市民公募委員などで構成する「市地域医療懇話会」を設置し、改革プランへの助言などをいただいています。それを内容に反映し、市議会にも説明を行います。今後は、市民の皆さんに対する説明会やパブリックコメント（意見募集）を実施した上で、年内には改革プランを決定することにし

改革プラン案の内容

医療提供体制の再構築

○医療事業（会計や組織体制）の統一

医師や看護師などの医療従事者をはじめとする限られた人員や設備、財政負担の下で、安定した医療提供体制を構築するために、市立医療施設の組織や会計を、27年4月に統一します。これにより、施設の役割分担と医師、看護師などの限られた医療資源の効果的、そして有効的な活用を推進するものです。

○病院および診療所の役割分担と連携体制の構築

公立病院は、民間の医療機関との連携を図りながら、救急や急性期医療などの役割を十分に発揮することで、地域医療の充実が図られます。これまで、総合水沢病院は胆江医療圏の中核病院である県立胆沢病院、県立江刺病院と共に本市の救急医療などを担ってきました。今後は、それぞれ得意な診療分野を強化しな

ています。

地域の医療を守るための課題、それは医師や看護師など医療従事者全体の確保です



市立医療施設の現状と課題

民間医療施設の増加による地域医療環境の変化

胆江医療圏の民間医療施設では、主に初期医療や慢性期医療を担っています。その数は比較的充実し、長期にわたり療養が必要とされる患者が入院するための療養病床も、県内の他の医療圏と比べ多くあります。当地域は、慢性期医療において、需給バランスはおおむね取れています。

市内を見渡しても、市立医療施設の近隣で民間医療施設が新たに開設されるなど、以前とは地域の医療環境に変化が生じています。

常勤医師の減少と看護師など医療従事者の不足

全国的に医師の偏在化が進み、地方での医師不足はいまだ解消される兆しは見えませんが、本市でも、急性期医療を担う市立医療施設などでの医師や看護師の不足は、大きな課題となっています。本市で中心的に急性期医療を担う公

立3病院でも常勤医師数が年々減少。当地域の中核病院である胆沢病院は、平成20年度に63人を数えた常勤医師が、24年度には55人と、4年間で8人減少しています（表1）。総合水沢病院も、15年は23人の医師がいました。

異なった運営形態による経営

現在、市の医療施設は、地方公営企業法の全部適用や一部適用、さらには特別会計による運営と、それぞれ違った運営形態で経営しているため、経理をはじめとした運営や人事方針など、一貫性を持った経営が困難となっています。

施設の老朽化
市立医療施設は、建築後15年～45年経過しています。

■表1 急性期医療を担う市内公立病院の常勤医師数の推移

施設名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
県立胆沢病院	63人	61人	61人	56人	55人
県立江刺病院	8人	7人	8人	8人	6人
総合水沢病院	16人	17人	15人	17人	19人
合計	87人	85人	84人	81人	80人

老朽化した施設や医療機器での診療は、患者の療養環境の低下に加え、医療施設としての魅力度が低下します。また、医師をはじめ、看護師などの医療従事者の確保にも影響を及ぼすことになります。

※2 … 急性期などを脱し、病気や身体の安定まで回復しているものの、完治はしていない期間の医療